

いわき農林事務所ニュース

2007年 1月号

◎活動状況

- ・ [指導農業士に学ぶ「いわき地方新規就農者\(しゃ\)等研修会」を開催](#)
- ・ [「ごはんの日」PRイベントを開催](#)
- ・ [「緑の応援隊！」第2回間伐材搬出ボランティア活動を実施](#)
- ・ [フレッシュ農業ガイド講座を開催](#)
- ・ [第2回福島県高\(こう\)病原性鳥インフルエンザいわき地方対策本部担当課長等会議を開催](#)

◎トピックス

- ・ [「どうすっぺ、おらほの集落営農」交流大会開催](#)
- ・ [第9回鉢花品評会開催](#)



活動状況

◎指導農業士に学ぶ「いわき地方新規就農者(しゃ)等研修会」を開催

12月7日(木)、認定就農者(しゃ)等を対象とした「いわき地方新規就農者(しゃ)等研修会」をいわき市錦町の助川農園で開催しました。

指導農業士(就農アドバイザー)を講師とした研修を開催することにより、技術・経営能力の向上を図り、農業経営の早期安定化と就農の定着化を目的としております。

今回は、『農業技術の基本について』をテーマに、3名の新規就農者(市の農業研修生等を含む)の方(かた)が受講されました。講師及び研修内容は下記のとおりです。

(1) 堆肥の生産と利用について(講師 松本(まつもと)英人氏、和牛繁殖、指導農業士)

(2) 土作りの基本について(講師 助川正克氏、施設野菜(トマト)、指導農業士)

松本氏より、「牛糞堆肥を活用した食味の良い米(こめ)づくり」について、助川氏からは、「親バカトマトへのこだわり」についてご講義いただき、意見交換では、研修生から事前に提示していただいたトマトに関する質問事項について、助川氏より適切な回答とアドバイスをいただきました。

また、終わりに両氏からは、研修生に対して就農の定着と今後の活躍について激励をいただきとともに、良き相談者になりたいと話していただきました。



意見交換会の様子

◎「ごはんの日」PRイベントを開催



ライシーホワイト・キビィも参加

12月8日(金)、ごはんの日をPRするイベントを開催しました。

市内飲食店6店舗の協力により開催した、ごはんの日応援店サービスデーでは、おかわり自由、ごはん料金割引など、各店が個性豊かなサービスで、米(こめ)消費拡大を呼びかけました。来店客に好評だったため、一部の飲食店では、今後も毎月8日のごはんの日をサービスデーにするとのことです。

また、ヨークベニマルエブリア店では、福島県オリジナル品種「ふくみらい」を配布しました。ライシーホワイトの小室裕夏(ゆか)さんと福島県地産地消イメージキャラクターのキビタンファミリーのキビィも参加し、人気を集めました。

多くの買い物客が集まり、なかには、さっそく店頭で新米(まい)ふくみらいを購入した方(かた)もいました。新米(まい)ふくみらい500g入り300袋は約30分で配布を終えました。

○「緑の応援隊！」第2回間伐材搬出ボランティア活動を実施

12月9日(土)、いわき農林事務所といわき地方振興局が連携して行う出先機関連携事業において、「緑の応援隊！」による第2回目の間伐(かんばつ)材搬出ボランティア活動を実施しました。この活動は、地球温暖化防止に重要な役割を果たす森林の整備や保全、木材や木質バイオマスの利用促進が急務となっていることから、いわき地方で間伐を実施した箇所、林地に残っている間伐(かんばつ)材を環境にやさしい木質バイオマス(木質ペレット)としての利用促進を図るため、「緑の応援隊」を募集し、間伐材を林外に搬出する作業を行うものです。ボランティアは、総勢36名の応募がありました。第2回目の今回は、田人町黒田のいわき市森林組合所有山林において、ボランティア22名が作業を実施しました。ボランティアの指導は、福島県指導林家の緑川平壽(へいじゅ)氏、いわき市森林組合の熊谷達也氏(福島県グリーンフォレスター)、佐川俊吉氏、草野宏氏の4名にお願いしました。作業に先立ち、グリーンフォレスターの熊谷氏から、作業の注意点や搬出の方法などの指導を受け、その後、参加者全員で準備体操を行(おこな)ってから、搬出作業を開始しました。

当日はあいにくの雨模様のため、作業は予定より時間を短縮して行いました。今回は林内から土場(どば)までの距離が長く、参加したボランティアは息を切らしながら搬出作業に励んでいました。

また、「私の林業経営」について、福島県指導林家(りんか)の緑川平壽(へいじゅ)氏から講話をいただきました。講話は、緑川氏所有の山林で行われ、ボランティアは、枝打ちが適正に行われたヒノキ林に圧倒されながら、緑川氏の林業家としての思いや、絞り丸太や磨き丸太の生産についての話に聞き入っていました。昼食の後、田人ふれあい館に移動し、木質ペレットボイラーと木質ペレットストーブを見学し、木質バイオマスの利用について、いわき市田人支所の堀内次長から説明を受けました。参加者は、実際に木質ペレットストーブで暖をとったり、木質ペレットボイラーで沸かしたお風呂に入り、木質ペレットの活用を肌で感じていました。特にペレットボイラーで沸かしたお湯は、「やわらかい感じでとても良いお湯だった」と大変好評で、作業の疲れが癒された様子でした。参加したボランティアは、間伐材の搬出作業はもとより、木質ペレットの



間伐材搬出状況

活用まで、実際に体験することで、木質バイオマスへの理解が深まった様子でした。

この活動は、来年度も継続して行う予定であり、今後の更なる木質バイオマスの利活用や森林整備の推進のためご協力をお願いします。

○フレッシュ農業ガイド講座を開催

12月18日(月)に磐城農業高等学校において、園芸科1年生(39名)を対象にフレッシュ農業ガイド講座を開催しました。フレッシュ農業ガイド講座はいわき農林事務所と磐城農業高校との連携事業として行(おこな)っているもので、他にも農業生産現場・施設等視察研修や農家研修等を行っております。

今回は、いわき農業青年クラブ連絡協議会会員で花き栽培を行う薄葉大介氏(有限会社平園芸 専務取締役)と、フラワーデザイナー講師の木村美也子氏(有限会社きむらみやこフラススタジオ代表)のお二人を講師として迎え、講演・実習を行いました。

薄葉氏の講演では、氏が会社で栽培しているシクラメンを持参していただき、見事に咲き誇ったシクラメンに、受講生は見入っていました。「数多く栽培している中でも特に大きくしっかりしたシクラメンを持ってきました。お店で買ったなら1万円はするよ」と聞いて、受講生は驚きの様子でした。また、薄葉さんの高校時代から現在までの取組みや就農の経緯についても話をされ、受講生も真剣に聞き入りました。木村氏のフラワーアレンジメント実習では、花の配置、色取りについての技術的な手法を教わり飾り付けを行いました。初めての経験で最初は不安そうに飾り付けていましたが、徐々に慣れて手際よく自分なりにアレンジしていました。男子生徒も、繊細でバランスの取れた作業ぶりで木村先生にも褒められていました。

今回のフレッシュ農業ガイド講座を通して就農へ対する考えや、農業への理解を深める事へ繋がったと思います。



初めてのフラワーアレンジメント

○第2回福島県高(こう)病原性鳥インフルエンザいわき地方対策本部担当課長等会議を開催

12月21日(木)、第2回福島県高(こう)病原性鳥インフルエンザいわき地方対策本部担当課長等会議を県いわき合同庁舎で開催しました。

国内では、同年6月23日に隣接する茨城県で鳥インフルエンザ清浄化宣言がなされ、9月28日には国の高(こう)病原性鳥インフルエンザ感染経路究明チームから感染経路等をまとめた報告書が発表されています。しかしながら、海外に目を向けると、国際獣疫事務局(OIE)が監視活動を強化するなか、韓国南西部の養鶏場で鳥約6,500羽が死亡し、11月23日に強毒タイプの高(こう)病原性鳥インフルエンザが発生したことが確認されたのを始め、4例の高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されています。また、東南アジアでは人への感染や死亡例が報告されており、ウイルスの突然変異により人から人への感染が懸念されています。

このような情勢を受け、会議では、昨年茨城県で行われた鳥インフルエンザ発生時の防疫「新型インフルエンザ」対応や海外での発生状況を確認するとともに、高(こう)病原性鳥インフルエンザ発生時におけるいわき地方対策本部初動マニュアル等について協議しました。

万が一、県内で鳥インフルエンザが確認されたときには、副知事を本部長とする福島県高(こう)病原性鳥インフルエンザ対策本部が、また地方組織として農林事務所長を本部長とする地方対策本部が設置され、市民の健康対策や家畜の防疫対策、畜産農家への支援等の対策を行います。

トピックス

○「どうすっぺ、おらほの集落営農」交流大会が開催される

12月22日（金）、「どうすっぺ、おらほの集落営農」交流大会（いわき市地域担い手育成支援協議会主催）が市文化センターで開催されました。

大会はミュージカル公演と分科会の2部構成で、公演では、兼業農家や婦人、頑固な米（こめ）作り農家など集落を凝縮した登場人物に、JA職員、地域起こしアドバイザーという配役で「より良い集落の農業をみんなで築くための話し合い」が演じられ、集落での話し合いの大切さや集落営農、品目横断的経営安定対策(たいさく)について理解が深められた様子でした。また、最終場面では、JAいわ

集落営農 ガンバロー！

き市の各営農経済センター長、JA中部の営農課長から、これからの集落営農の取組推進に向けた決意表明がなされ、会場からは大きな拍手が送られ一層の盛り上がりを見せました。

続く分科会では10年後の農業経営や集落での困りごと、集落での話し合いの手法などについて討議が行われました。短い時間ではありましたが、ほ場整備の推進や機械の更新、農業後継者の確保、集落リーダーの重要性など参加農家や集落が抱える具体的な悩みや課題について活発に意見交換がなされました。

今後、地域のリーダーである参加者の方々を通じ、集落での話し合いの場が広がって行くものと期待されます。

○第9回鉢花品評会が開催される

12月5日（火）、いわき市中央卸売市場花き棟にて第9回鉢花品評会が開催されました。これは、（株）いわき中央生花といわき花き鉢物研究会が共催し、鉢花の一層の需要拡大と生産の振興を図ることを目的に毎年開催されているもので、県内外からシクラメンを中心にポインセチア、ラン類などの鉢物が169点出品されました。

県・市職員、流通業者等の審査員が、花色、花型、全体のバランス、商品性などを審査した結果、（有）矢祭園芸（矢祭町）より出品されたシクラメンが福島県知事賞に選ばれました。今年度は春先の低温・日照不足、夏から秋にかけての高温と気象変動が激しく、適切な肥培管理が難しい年でありましたが、株の締まりや開花揃いが良く、ボリュームのある仕上がりの作品が多く、レベルが高い出品の中、いわき市内の生産者が出品したシクラメンも3点入賞し、健闘をみせました。

鉢花品評会の状況

◀ もどる

すすむ ▶